SONY

4-411-333-**03**(1)

ワイヤレス
ステレオヘッドセット

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

XBA-BT75

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1 年に一度は、ほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶ 電源を切る

❷ 充電中の場合はキャリングケースをパソコンなどからはずし、ヘッドセットをキャリングケースからはずす

❸ ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災･感電･漏液･発熱･破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

分解禁止

行為を指示する記号

指示

目次

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

付属以外の USB ケーブル、キャリングケースを使わない

充電するときは、必ず付属のUSBケーブル、キャリングケースを使用してください。
破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

推奨以外の USB 充電 AC 電源アダプターを使わない

USB充電AC電源アダプターを用いて充電するときは、必ず推奨のAC-U501AD（別売）を使用してください。

火の中に入れない

分解しない

故障や感電の原因となります。充電式電池の交換、内部の点検および修理はソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご依頼ください。

火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない

⚠警告

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転中は本機および携帯電話を使用しない。
- 運転中に携帯電話の画面を注視しない。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所ではヘッドセットを使わないでください。

内部に水や異物を入れない

本機は防水仕様ではありません。
水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

ヘッドセットやキャリングケースを布団などでおおった状態で使わない

禁止

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

次のページにつづく

⚠注意 **下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**

大音量で長時間続けて聞きすぎない

禁止

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。耳を守るため、音量を上げすぎないようにご注意ください。本機につないでいる*Bluetooth*機器によっては、通話時にハウリング現象がおきることがありますので、常に適度な音量を保つようにしてください。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。音量は徐々に上げましょう。

通電中の製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない

変形や故障の原因となることがあります。

ヘッドセットを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない

変形や故障の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

本機を航空機内で使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本機を医療機器の近くで使わない

電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。満員電車などの混雑した場所や医療機関の屋内では使わないでください。

本機を心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

本機を自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本機は、国内専用です

海外では国によって電波使用制限があるため、本機を使用した場合、罰せられることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険 充電式電池が液漏れしたとき

充電式電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない
液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはソニーサービス窓口にご相談ください。
液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠警告 充電式電池について

- 付属のUSBケーブル、キャリングケース以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光の当たるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。

⚠注意 日本国内での充電式電池の廃棄について

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

Bluetooth 機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.4000 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書（裏表紙）をご覧ください。

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

*Bluetooth*とそのロゴマークは、Bluetooth SIG,INC.の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

Bluetooth 無線技術について

ブルートゥース
Bluetooth® 無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ 10 m 程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて 2 つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1 つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。
無線技術によって USB のように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。
Bluetooth 標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

Bluetooth 機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、*Bluetooth* 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記の *Bluetooth* バージョンとプロファイルに対応しています。
対応 *Bluetooth* バージョン：
Bluetooth 標準規格 Ver. 3.0 準拠
対応 *Bluetooth* プロファイル：
– A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
– AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）：再生、一時停止、停止など、AV 機器を操作する。
– HSP（Headset Profile）*：通話／携帯電話を操作する。
– HFP (Hands-free Profile) *: ハンズフリーで通話／携帯電話を操作する。

* 携帯電話の *Bluetooth* 機能が HFP と HSP の両方に対応している場合は、HFP（Hands-free Profile）を使用してください。

ご注意
- *Bluetooth* 機能を使うには、相手側 *Bluetooth* 機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。
ただし、同じプロファイルに対応していても、*Bluetooth* 機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- *Bluetooth* 無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、ワイヤレスオーディオレシーバー側での再生がわずかに遅れます。

こんなことができます

本機は、*Bluetooth* 無線技術を利用したワイヤレスステレオヘッドセットです。

- コード途中のコントロールボックスをなくしたワイヤレスヘッドセット。
- *Bluetooth* 対応音楽プレーヤー(携帯電話、デジタルミュージックプレーヤー、*Bluetooth* トランスミッターを接続したデジタルミュージックプレーヤーなど)*1 の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。
- 高い遮音性を持たせた筐体構造により、音漏れを低減し、周囲の騒音も抑制。
- ヘッドセット約 2.5 回分の充電容量を持つ内蔵充電式電池をキャリングケースに搭載。未使用時にキャリングケースに収納しながら充電が可能。
- *Bluetooth* 標準規格 Ver.3.0 採用。
  周囲の電波の影響による音切れが発生しにくい EDR(Enhanced Data Rate)2Mbps 伝送に対応。また、通信状態が悪い状況下では、サウンドクオリティを Standard(デフォルトは High quality)に選択することで安定した通信状態を保持。
- *Bluetooth* 対応 *[2] スマートフォン、携帯電話のハンズフリー通話が可能。
- 操作性を重視したシンプルなインラインリモコン。
  AVRCP に対応 *[3]、音楽再生時、再生 / 一時停止 / 曲送り / 曲戻しに対応。
- 便利な USB 充電式。
- 高音質な通話を可能にするエコーキャンセレーションとノイズサプレッションを搭載。
- ワンセグ音声もワイヤレスで楽しめる SCMS-T 対応。

Bluetooth 無線技術については 10 ページをご覧ください。

*[1] 接続する *Bluetooth* 機器が A2DP に対応している必要があります。
*[2] 接続する *Bluetooth* 機器が HSP または HFP に対応している必要があります。
*[3] 接続する *Bluetooth* 機器が AVRCP に対応している必要があります。

Bluetooth 機器基本操作の流れ

ペアリングする

音楽送信に対応した *Bluetooth* 機器と本機を、接続相手として登録します。一度ペアリングすれば、次回からペアリングする必要はありません。

Bluetooth 対応
携帯電話など

ワイヤレス
ステレオヘッドセット

ペアリング

→20 ～ 21 ページ

音楽を聞く　　　　通話する

Bluetooth 接続する

Bluetooth 機器を操作して、*Bluetooth* 接続します。

接続

A2DP　AVRCP

→25 ページ

Bluetooth 接続する

本機の電源を入れると、自動的にペアリングした携帯電話と *Bluetooth* 接続します。

接続

HFP　HSP

→27 ～ 28 ページ

音楽を聞く

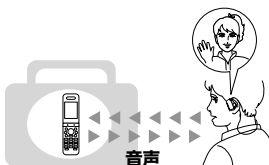
Bluetooth 機器で再生する音楽を本機で聞くことができます。音楽の再生、一時停止または停止などを、本機で操作できます。

音楽

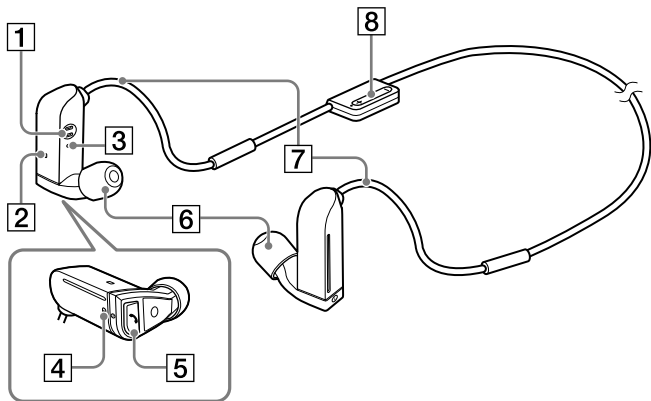
→25 ～ 26 ページ

通話する

本機を操作して電話を受けることができます。

音声

→28 ～ 30 ページ

各部のなまえと働き

ヘッドセット

1 **充電端子**

2 **ランプ（青）/（赤）**
本機の通信状態（青）・電源状態（赤）を表示します。
充電時に点灯（赤）します。

3 **リセットボタン**

4 **マイク**

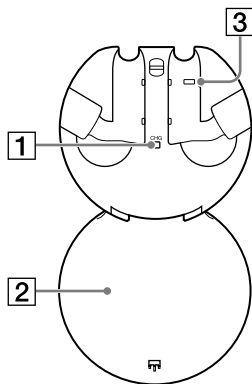
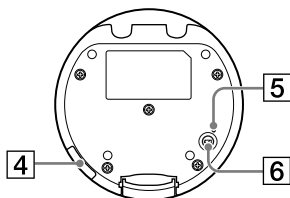
5 **（マルチファンクション）ボタン**
電源を入れたり、本機で通話するときや音楽を聞くときにさまざまな機能を操作します。

6 **イヤーピース**

7 **ハンガー**
耳に合わせてハンガーの形状が変えられます。

8 **＋ */ －ボタン**
本機で通話するときや音楽を聞くときは、小刻みに押して本機の音量を調節します。
また、本機で音楽を聞くときは、長押しして曲送り／曲戻しなどをします。

* 凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

キャリングケース

1 **充電ランプ（赤）**
充電中に点灯します。

2 **ふた**
ヘッドセットを充電するときは、ふたを閉めてください。

ご注意
ふたを閉めないと、ヘッドセットは充電されません。

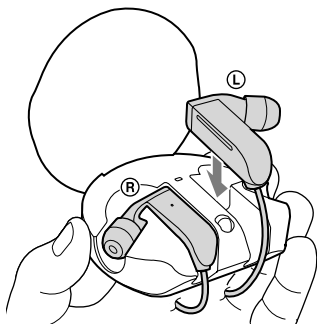
3 **充電端子**
Ⓡ 表示のあるほうのヘッドセットをセットして、ヘッドセットの充電をします。

4 **USB 端子**

5 **電池残量ランプ**
点滅回数でキャリングケースの内蔵電池残量を確認できます。

6 **電池残量確認ボタン**
キャリングケースの内蔵電池残量を表示するときに使います。

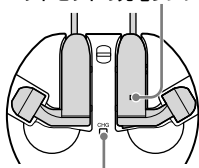
ヘッドセットを正しく収納する

キャリングケースにヘッドセットを入れて持ち運ぶときは、Ⓡ 表示のあるヘッドセットを左側のくぼみに入れます。次に、Ⓛ 表示のあるヘッドセットを右側のくぼみに入れてから、ふたを閉めます。

本機を充電する

ヘッドセットとキャリングケースはリチウムイオン充電式電池を内蔵しています。充電してからお使いください。ヘッドセットを充電するには、付属のキャリングケースが必要です。

ヘッドセットとキャリングケースを同時に充電する

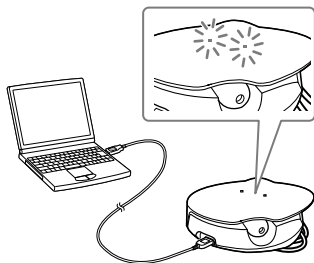
1 ヘッドセットをキャリングケースに収納する。

収納のしかたについては、「ヘッドセットを正しく収納する」（15ページ）をご覧ください。
ヘッドセットの充電ランプが右側にあるのを確認してください。

2 キャリングケースのふたを閉める。

カチッと音がするまでしっかり閉めてください。

ご注意
ふたを閉めないと、ヘッドセットは充電されません。

3 付属の USB ケーブルをキャリングケースとパソコンにつなぐ。

USB ケーブルのコネクターは、⚲マークを上にして差し込みます。

キャリングケースとパソコンをつなぐと充電が始まります。
ヘッドセットとキャリングケースの充電ランプがそれぞれ点灯していることを確認してください。充電ランプはキャリングケースのふたを閉めたままで確認できます。
ヘッドセットの充電時間は約 2 時間 *、キャリングケースの充電時間は約 3 時間 * で完了し、それぞれ充電ランプは自動的に消灯します。

* 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間

ご注意

- ヘッドセットとパソコンを直接 USB ケーブルでつなぐことはできません。
- ヘッドセットやキャリングケースを長期間お使いにならなかった後に充電を行なった場合、USB ケーブルをパソコンにつないでもヘッドセットやキャリングケースの充電ランプがすぐに点灯しない場合があります。その場合は、キャリングケースから USB ケーブルをはずさず、ヘッドセットやキャリングケースの充電ランプが点灯するまでしばらくお待ちください。
- USB 充電に対応しているパソコンの推奨環境については、「USB 充電のパソコン推奨環境」(39 ページ)をご覧ください。

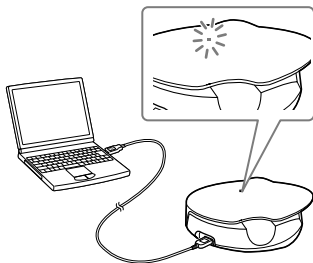
ヒント

- キャリングケースの電池残量が充分にあるときは、パソコンと USB 接続していないときでも、ヘッドセットを充電できます。充電中はヘッドセットの充電ランプが点灯し、完了すると消灯します。
- ヘッドセットの電源が入ったままキャリングケースに収納し、キャリングケースのふたを閉めると、ヘッドセットの電源は自動的に切れ充電を開始します。
- 電源コンセントとキャリングケースをつないで充電するときは、USB 充電 AC 電源アダプター AC-U501AD(別売)をお使いください。詳しくは、USB 充電 AC 電源アダプターに付属の取扱説明書をお読みください。
- 充電中はヘッドセットの電源を入れることができません。

キャリングケースのみを充電する

キャリングケースをあらかじめ充電しておくと、パソコンと USB 接続していないときでも、ヘッドセットを充電できます。

1 付属の USB ケーブルをキャリングケースとパソコンにつなぐ。

USB ケーブルのコネクターは、 マークを上にして差し込みます。

キャリングケースとパソコンをつなぐと充電が始まります。
キャリングケースの充電ランプが点灯していることを確認してください。充電は、約 3 時間 * で完了し、充電ランプは自動的に消灯します。

* 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間

ヘッドセットをキャリングケースで充電する

キャリングケースをあらかじめ充電しておくと（17 ページ）、パソコンと USB 接続していないときでも､ヘッドセットを充電できます。

1 ヘッドセットをキャリングケースに収納する。

収納のしかたについては、「ヘッドセットを正しく収納する」（15 ページ）をご覧ください。

2 キャリングケースのふたを閉める。

カチッと音がするまでしっかり閉めてください。

ご注意

ふたを閉めないと、ヘッドセットは充電されません。

キャリングケースのふたを閉めるとヘッドセットの充電が始まります。

ヘッドセットの充電ランプが点灯していることを確認してください。充電ランプはキャリングケースのふたを閉めたままで確認できます。

ヘッドセットの充電時間は約 2 時間 * で完了し、充電ランプは自動的に消灯します。

* 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間

警告

本機は以下の原因などにより、充電中に異常を検知すると、充電が完了していなくてもランプ（赤）が消灯することがあります。

– 低温時（約 10 ℃以下）

– 高温時（約 35 ℃以上）

– 充電式電池に問題がある場合

この場合、上記の温度とならない環境で充電を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

ご注意

- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、充分に充電できるようになります。
- 長期間使用しない場合、電池の劣化を防ぐため、半年に 1 度充電を行ってください。
- 長い間使わなかったときは、充電時間が長くかかる場合があります。
- 使用可能時間が通常の半分ぐらいに低下した場合は、充電式電池の寿命と考えられます。充電式電池の交換については、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電気的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- キャリングケースとパソコンを接続中にパソコンが省電力モードになると、正しく充電されません。接続を行う前にパソコンの設定を確認してください。パソコンが省電力モードになると充電ランプは自動的に消灯します。この場合は、充電をやり直してください。
- キャリングケースとパソコンは、付属の USB ケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USB ハブなどを経由して接続すると、正しく充電されません。

使用可能時間 *

ヘッドセットの状態	使用可能時間
連続通信（音楽再生時間を含む）	最大 3.5 時間
連続待ち受け	最大 400 時間

* 周囲の温度や使用状態により、上記の使用時間と異なる場合があります。

ヘッドセットの電池残量を確認する

ヘッドセットの電源を入れたときにランプ（青）が 2 回点滅し、その後ランプ(赤)が点滅します。ランプ(赤)が点滅した回数で、電池残量を確認できます。

ランプ（赤）	電池残量
3 回点滅	満
2 回点滅	中
1 回点滅	減 （要充電）

残量がほとんどなくなると

ランプ（青）が点灯します。充電式電池の残量が完全になくなると、ビープ音が鳴り、本機の電源が自動的に切れます。

キャリングケースの電池残量を確認する

キャリングケースの裏面にある残量確認ボタンを押すと、電池残量ランプが点滅します。点滅したランプの数で、電池残量を確認できます。

ご注意
キャリングケース充電中は、電池残量を確認することはできません。

ランプ（数）	電池残量
3 回点滅	満
2 回点滅	中
1 回点滅	減 （要充電）

ランプが 3 回点滅した状態で、最大約 2.5 回 * ヘッドセットの満充電が可能です。

* 周囲の温度や使用状態により、上記の使用時間と異なる場合があります。

ペアリングする

ペアリングとは

Bluetooth 機器では、あらかじめ、接続しようとする機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。
一度ペアリングすれば、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。

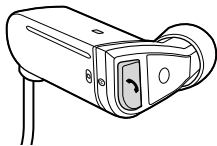
- 修理を行ったなど、ペアリング情報が消去されてしまったとき。
- 9 台以上の機器をペアリングしようとしたとき。
  本機は 8 台までの機器をペアリングすることができます。8 台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、8 台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- 接続相手の機器から、本機との接続履歴が削除されたとき。
- 本機を初期化したとき。
  （36 ページ参照）
  すべてのペアリング情報が消去されます。

ペアリングの手順

ペアリングを行う前に、ヘッドセットが充分充電されているかどうかご確認ください。（16、18 ページ）

1 相手側 *Bluetooth* 機器を、ヘッドセットの 1 m 以内に置く。

2 ヘッドセットの電源が切れている状態で（マルチファンクション）ボタンを押し続け、ランプ（青）とランプ（赤）が交互に点滅したら離す。

ヘッドセットがペアリングモードに入ります。
（初めてペアリングを行うときや、本機を初期化した後などは約 2 秒間、それ以外は約 7 秒間押し続けると、ペアリングモードに入ります。）

ご注意

5 分以内にペアリングを完了しなかった場合、本機のペアリングモードは解除され、電源が切れます。この場合、もう一度手順 1 から操作を行ってください。

3 相手側 *Bluetooth* 機器でペアリング操作を行い、本機を検索する。

相手側 *Bluetooth* 機器の画面に、検出した機器の一覧が表示されます。本機は「XBA-BT75」と表示されます。
「XBA-BT75」と画面に表示されない場合は、もう一度手順 1 から操作を行ってください。

ご注意

- 相手側 *Bluetooth* 機器の操作については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 検出した機器の一覧が表示できない *Bluetooth* 機器や、画面がない機器とペアリングするときは、本機と相手側 *Bluetooth* 機器の両方をペアリングモードにしてください。相手側 *Bluetooth* 機器によってはこの操作でペアリングできる場合があります。このとき相手側 *Bluetooth* 機器のパスキーが「0000」以外に設定されていると、本機とペアリングすることができません。

4 相手側 *Bluetooth* 機器の画面に表示されている「XBA-BT75」を選ぶ。

5 相手側 *Bluetooth* 機器の画面でパスコード * の入力を要求されたら、「0000」を入力する。

ランプ（青）がゆっくりした点滅（または 2 回点滅）に変わったら、ペアリングの完了です。このとき、相手側 *Bluetooth* 機器の画面によっては「登録完了」などと表示されます。

* パスキーは、パスコード、PIN コード、PIN ナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。

ご注意

相手側 *Bluetooth* 機器によっては、パスキーの入力を要求されない場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書をご確認ください。

6 相手側 *Bluetooth* 機器で *Bluetooth* 接続操作を行う。

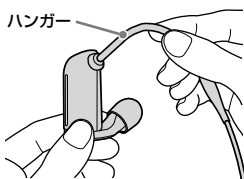
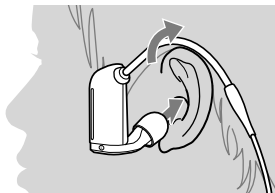
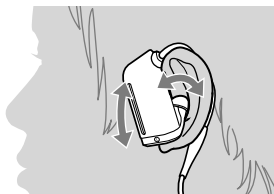
本機が相手側 *Bluetooth* 機器を最後に接続した機器として記憶します。
また、相手側 *Bluetooth* 機器によっては、ペアリングが完了すると自動的に本機と *Bluetooth* 接続した状態になる場合があります。

ヒント

- 複数の *Bluetooth* 機器とペアリングするには、ペアリングしたい機器ごとに手順 1 ～ 5 を繰り返してください。
- 本機とペアリングした *Bluetooth* 機器の情報をすべて削除するには、「本機を初期化する」（36 ページ）をご覧ください。

本機を装着する

Ⓡ の印の付いた方を右耳に、Ⓛ の印の付いた方を左耳に付けてください。ハンガーがねじれないように装着してください。

1 ヘッドセットを下図のように持ち、ハンガーを耳の形になるように曲げる。

2 ハンガーを耳の後ろにかけながら、本体を耳に装着する。

3 本体を上下左右に動かして、おさまりの良い位置に調節する。

4 ハンガーが耳にぴったりと沿うように調節する。

ヒント
下図のように、耳の根元をハンガーと本体で挟み込むように押さえると、ヘッドセットが安定します。

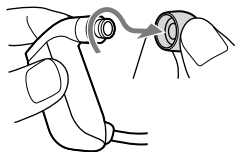
イヤーピースの正しい装着方法

イヤーピースが耳にフィットしていないと、低音が聞こえないことがあります。より良い音質を楽しんでいただくためには、イヤーピースのサイズを交換したり、おさまりの良い位置に調整するなど、ぴったり耳に装着させるようにしてください。

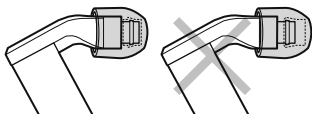
お買い上げ時には、M サイズが装着されています。サイズが耳に合わないと感じたときは、付属の L サイズや S サイズに交換してください。

ご注意
イヤーピースは本機専用です。他の機器に使用しないでください。

イヤーピースをはずすときは

ヘッドセットを片手で押さえ、もう一方の手でイヤーピースを軸ごとねじりながらはずします。

ヒント
イヤーピースが滑りやすくはずしにくいときは、乾いた柔らかい布でくるむとはずしやすくなります。

イヤーピースを付けるときは

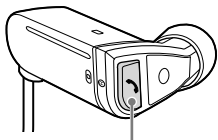
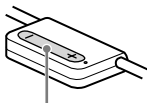
イヤーピースがはずれて耳に残らないよう、イヤーピースを交換するときは、ヘッドセットにしっかり取り付けてください。

Bluetooth 機能のランプ表示

B : ランプ（青）
R : ランプ（赤）

状態		点滅パターン
ペアリング	機器検索中	B ●ー●ー●ー●ー●ー●ー●ー●ー… R ー●ー●ー●ー●ー●ー●ー●ー●…
接続動作	接続待ち	B ●ーー●ーー●ーー●ーー●ーー●… R ー
	接続動作中	B ●●ー●●ー●●ー●●ー●●ー… R ー
接続済み	HFP/HSP または A2DP の接続（非通話時または非音楽再生時）	B ●ーーーーーーーーー●ーーーーー… R ー
	HFP/HSP と A2DP の同時接続（非通話時または非音楽再生時）	B ●ー●ーーーーーーー●ー●ーーー… R ー
音楽	再生時	B ●●ーーーーーーーー●●ーーーー… R ー
	再生時 （HFP/HSP で待ち受け中）	B ●●●ーーーーーーー●●●ーーー… R ー
通話	着信中	B ●●●●●●… R ー
	通話中	B ●●ーーーーーーーー●●ーーーー… R ー
	音楽再生中の通話	B ●●●ーーーーーーー●●●ーーー… R ー

残量がほとんどなくなると

ランプ（青）で行われていた *Bluetooth* 機能のランプ表示が、ランプ（赤）での表示に変わります。

音楽を聞く

（マルチファンクション）ボタン

＋／－ボタン

本機は SCMS-T 方式のコンテンツ保護に対応しています。SCMS-T 方式対応の携帯電話やワンセグ TV などの音楽（または音声）を、本機で聞くことができます。
機器の操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

– 送信側 *Bluetooth* 機器の電源が入っている。
– 本機と送信側 *Bluetooth* 機器のペアリングが完了している。
– 送信側 *Bluetooth* 機器が音楽送信機能に対応している（プロファイル：A2DP*）。

1 本機の電源が切れている状態で、（マルチファンクション）ボタンを約 2 秒間押し続け、ランプ(青)が 2 回点滅したら離す。

電源が入り、ランプ（青）がゆっくりした点滅（または 2 回点滅）に変わります。

ご注意

電源を入れたあと、本機は前回接続した *Bluetooth* 機器に HFP または HSP で自動的に接続しようとします。本機で通話をしない場合は、前回接続した *Bluetooth* 機器を HFP または HSP の接続待ち状態にしないでください。音楽再生中に通話もする場合は、30 ページをご覧ください。

2 送信側 *Bluetooth* 機器で *Bluetooth* 接続操作を行う（A2DP）。

送信側 *Bluetooth* 機器の操作については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 送信側 *Bluetooth* 機器の再生を始める。

ヒント

（マルチファンクション）ボタンを押して、本機から送信側 *Bluetooth* 機器へ A2DP の *Bluetooth* 接続をすることもできます。ただし、本機で通話をしているときは、（マルチファンクション）ボタンを押しても A2DP の *Bluetooth* 接続はできません。

ご注意

- 本機と送信側 *Bluetooth* 機器を、HSP で *Bluetooth* 接続して音楽を再生した場合、本機で高音質の音楽を聞くことができません。送信側 *Bluetooth* 機器を操作して、A2DP の *Bluetooth* 接続に切り換えてください。
- A2DP の *Bluetooth* 接続中に本機の電源を切ったあと、再度 A2DP の Bluetooth 接続を行う場合は、もう一度手順 1 から操作を行ってください。

＊ プロファイルについて詳しくは、10 ページをご覧ください。

次のページにつづく

音量を調節するには

音楽を再生しているときに、＋ / －ボタンを小刻みに押して音量を調節します。
送信側 *Bluetooth* 機器で音量を調節することもできます。

ヒント
- 送信側 *Bluetooth* 機器によっては、接続した機器側でも音量の調節が必要な場合があります。
- 本機は、音楽を聞くときの音量と通話するときの音量を、それぞれ調整することができます。通話中に音量を変えても、音楽再生時の音量は変わりません。

使い終わるには

1 **送信側 *Bluetooth* 機器を操作して、*Bluetooth* 接続を切断する。**

2 **本機の（マルチファンクション）ボタンを約 2 秒間押し続け、ランプ（青）が点灯したら離す。**
本機の電源が切れ、ランプが消灯します。

ヒント
- 送信側 *Bluetooth* 機器の種類によっては、音楽の再生を終了すると、自動的に *Bluetooth* 接続を切断する場合があります。
- 音楽再生中に音が途切れたりする場合は、「音楽再生中に音が途切れやすい」（35 ページ）をご覧ください。

送信側 *Bluetooth* 機器を操作する – AVRCP

送信側 *Bluetooth* 機器が機器操作機能（対応プロファイル：AVRCP）に対応している場合は、本機のボタンで、送信側 *Bluetooth* 機器の操作ができることがあります。

ご注意
送信側 *Bluetooth* 機器の対応機能については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご確認ください。

再生する

一時停止中に（マルチファンクション）ボタンを押します。再生中に（マルチファンクション）ボタンを押すと、再生を一時停止します。

曲送り／曲戻しをする

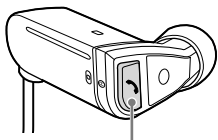
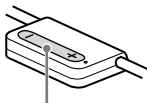
再生中または停止中に＋／－ボタンを押し続け、アラーム音が聞こえたら離します。
＋ボタンは曲送り、－ボタンは曲戻しをします。

早送り／早戻しをする *

再生中または停止中に＋／－ボタンを押し続け、早送りまたは早戻しの再生音が聞こえたら離します。
＋ボタンは早送り、－ボタンは早戻しをします。

* 送信側 *Bluetooth* 機器によっては、連続曲送り／曲戻しをします。また、操作に対応していない場合があります。

ヒント
送信側 *Bluetooth* 機器によっては上記の操作で曲戻しができない機器があります。その場合はアラーム音で指を離し、すぐに－ボタンをもう 1 度押すと曲戻しができる場合があります。

通話する

（マルチファンクション）ボタン

＋／－ボタン

Bluetooth 対応携帯電話からの通話発信に対応しています *。
機器の操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

– 携帯電話の *Bluetooth* 機能が有効になっている。
– 本機と *Bluetooth* 対応携帯電話のペアリングが完了している。

* 本機から直接通話発信することはできません。

1 本機の電源が切れている状態で、（マルチファンクション）ボタンを約 2 秒間押し続ける。

ランプ（青）が 2 回点滅し、電源が入ります。電源が入ると、前回接続した *Bluetooth* 対応携帯電話へ自動的に接続します。

本機が *Bluetooth* 対応携帯電話へ自動的に接続しないときは

1 *Bluetooth* 対応携帯電話で *Bluetooth* 接続操作を行う（HFP または HSP*）。

Bluetooth 対応携帯電話の操作については、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。
検出した機器の一覧が、*Bluetooth* 対応携帯電話の画面に表示されます。本機は「XBA-BT75」と表示されます。
HFP と HSP の両方に対応した *Bluetooth* 対応携帯電話をご使用になるときは、HFP をご使用ください。

* プロファイルについて詳しくは、10 ページをご覧ください。

次のページにつづく

電話を受けるには

着信があると、本機から着信音が聞こえます。

1 （マルチファンクション）ボタンを押して、電話を受ける。

本機から聞こえる着信音は、携帯電話によって以下のように異なります。

– 本機の着信音

– 携帯電話の着信音

– 携帯電話の *Bluetooth* 接続専用の着信音

ご注意

携帯電話のボタンを押して電話を受けた場合、機種によっては、携帯電話での通話が優先されることがあります。この場合、本機の（マルチファンクション）ボタンを約 2 秒間押し続けるか、携帯電話を操作して、音声通信を本機に切り換えてください。携帯電話側での操作について詳しくは、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

音量を調節するには

＋／－ボタンを小刻みに押します。

ヒント

- 通話待ち受け中に音量を調節することはできません。
- 本機は、通話するときの音量と音楽を聞くときの音量を、それぞれ調整することができます。音楽再生中に音量を変えても、通話時の音量は変わりません。

電話を切るには

本機の（マルチファンクション）ボタンを押して、通話を終了します。

使い終わるには

1 *Bluetooth* 対応携帯電話を操作して、*Bluetooth* 接続を切断する。

2 （マルチファンクション）ボタンを約 2 秒間押し続け、ランプ（青）が点灯したら離す。

ランプ（青）が消灯し、電源が切れます。

Bluetooth 対応携帯電話を操作する – HFP、HSP

携帯電話との接続には、HFP または HSP のどちらかが使用されます。どちらのプロファイルが使われるかは、携帯電話によって異なり、対応する機能も異なります。
お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

HFP

状態	マルチファンクションボタン	
	短押し	長押し
発信中 *	発信中断	通話機器を本機または携帯電話へ切り換え
着信中	応答	拒否
通話中	通話終了	通話機器を本機または携帯電話へ切り換え

* 携帯電話からの操作のみ可能です。

HSP

状態	マルチファンクションボタン	
	短押し	長押し
発信中 *[1]	発信中断 *[2]	—
着信中	応答	—
通話中	通話終了 *[2]	本機の電源切

*[1] 携帯電話からの操作のみ可能です。
*[2] 携帯電話の機種によっては、操作に対応していない場合があります。お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

音楽再生中に通話をする

音楽再生中に通話をするには、A2DPだけではなくHFPまたはHSPでの*Bluetooth*接続も必要です。例えば、*Bluetooth*対応音楽プレーヤーで音楽を再生中に*Bluetooth*対応携帯電話で通話をしたいときは、本機とお使いの携帯電話がHFPまたはHSPで*Bluetooth*接続されている必要があります。

次の手順で本機とお使いの機器を*Bluetooth*接続しておきます。

1 **「通話する」（27ページ）の手順に従って、本機とお使いの携帯電話をHFPまたはHSPで*Bluetooth*接続する。**

2 **音楽を再生する*Bluetooth*機器（音楽プレーヤーや携帯電話など）を操作して、A2DPで本機と*Bluetooth*接続する。**

音楽再生中に電話を受けるには

着信があると音楽が一時停止し、本機から着信音が聞こえます。

1 **（マルチファンクション）ボタンを押して、通話を開始する。**

通話が終了したら、（マルチファンクション）ボタンを押します。
本機が音楽再生に戻ります。

着信があっても本機から着信音が聞こえないときは

1 **再生中の音楽を停止する。**

2 **着信音が鳴ったら、（マルチファンクション）ボタンを押して、通話を開始する。**

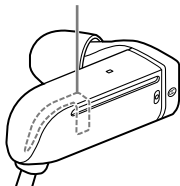
本機を廃棄する

Li-ion

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。この充電式電池の取り外しはお客様自身では行わず、「ソニーの相談窓口」にご相談ください。(「ソニーの相談窓口」の連絡先は裏表紙に記載されています。)

使用上のご注意

Bluetooth 通信について

- *Bluetooth* 無線技術ではおよそ 10 m 程度までの距離で通信できますが、障害物（人体、金属、壁など）や電波状態によって通信有効範囲は変動します。
- 本機のアンテナは、下記の図の点線で示した部分に内蔵されています。接続する *Bluetooth* 機器と本機のアンテナとの間に障害物が入らないようにすることで、*Bluetooth* 通信の感度は向上します。
  接続する機器のアンテナ部と、本機内蔵アンテナ部分との間に障害物などがある場合、通信距離が短くなります。

- *Bluetooth* 通信は以下の状況において、通信感度に影響を及ぼすことがあります。
  – 本機と *Bluetooth* 機器の間に人体や金属、壁などの障害物がある場合
  – 無線 LAN が構築されている場所や、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- *Bluetooth* 機器と無線 LAN（IEEE802.11b/g）は同一周波数帯（2.4 GHz）を使用するため、無線 LAN を搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。
  – 本機と *Bluetooth* 機器を接続するときは、無線 LAN から 10 m 以上離れたところで行う。
  – 10 m 以内で使用する場合は、無線 LAN の電源を切る。
  – 本機と *Bluetooth* 機器をできるだけ近付ける。
- *Bluetooth* 機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機および *Bluetooth* 機器の電源を切ってください。
  – 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
  – 自動ドアや火災報知機の近く
- 本機は、*Bluetooth* 無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、*Bluetooth* 標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応していますが、設定内容などによってセキュリティーが充分でない場合があります。
  Bluetooth 通信を行う際はご注意ください。
- *Bluetooth* 通信時に情報の漏洩が発生しましても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機はすべての *Bluetooth* 機器との *Bluetooth* 接続を保証するものではありません。
  – 接続する *Bluetooth* 機器は、Bluetooth SIG の定める *Bluetooth* 標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。
  – 接続する機器が上記 *Bluetooth* 標準規格に適合していても、機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
  – ハンズフリー通話中、接続機器や通信環境により、雑音が入ることがあります。
- 接続する機器によっては、通信ができるようになるまで時間がかかることがあります。

静電気に関するご注意

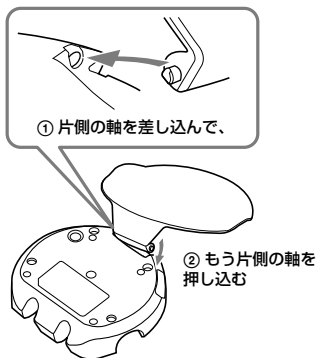
空気が乾燥する時期に耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、これはヘッドセットの故障ではなく人体に蓄積される静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより影響が軽減されます。

その他のご注意

- 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所、直射日光の当たる場所や停車中の車内などには置かないでください。故障の原因となります。
- 携帯電話でご使用の際、電波状況、場所の影響により、ご使用できない場合があります。
- 本機は、力を加えたり重さを加えたりしたまま長時間放置すると、変形してしまうおそれがあります。保管するときは、変形しないようにしてください。
- 落としたりぶつけたりなどの強いショックを与えないでください。
- 汚れは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などでポケットに入れての使用
    身体をかがめたときなどに落として水濡れの原因となる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用
  - 汗をかく状況での使用
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れると水濡れの原因となる場合があります。
- ほかに疑問点や問題点がある場合は、もう一度この取扱説明書をよく読んでから、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

イヤーピースは消耗品です。紛失・破損した場合は、お買い上げ店、またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

キャリングケースのふたがはずれてしまったときは

キャリングケースのふたがはずれてしまったときは、下記の図のように取り付けてください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、再度の点検と、ホームページのサポート情報を確認してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

共通

電源が入らない

➡ 本機を充電する。長期間使用しない場合、電池の劣化を防ぐため、半年に 1 度充電を行ってください。

➡ 充電中は電源を入れることができません。USB ケーブルをキャリングケースからはずし、電源を入れる。

ペアリングできない

➡ 本機と *Bluetooth* 機器をなるべく近付けてからペアリングを行う。

Bluetooth 接続ができない

➡ 本機の電源が入っているか確認する。

➡ 相手側 *Bluetooth* 機器の電源が入っていて *Bluetooth* 機能が有効になっていることを確認する。

➡ 本機に相手側 *Bluetooth* 機器との接続履歴が残っていない。ペアリングが完了したらすぐに、相手側 *Bluetooth* 機器で *Bluetooth* 接続を行う。

➡ 本機または相手側 *Bluetooth* 機器がスリープ状態になっている。

➡ *Bluetooth* 接続が切断されている。
もう一度 *Bluetooth* 接続を開始する。
（音楽を聞く場合：25 ページ参照、通話する場合：27 ページ参照）

音がひずむ

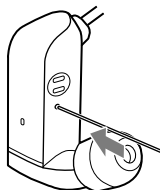
➡ 本機や *Bluetooth* 機器の周辺に 2.4 GHz 帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。

通信距離が短い（音声が途切れる）

➡ 無線 LAN や *Bluetooth* 機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使用する。

➡ 本機のアンテナ（32 ページ参照）を相手側 *Bluetooth* 機器の方向へ向け、障害物で遮らないようにする。

本機を操作できない

➡ 本機をリセットする（この操作をしても、ペアリング情報は削除されません）。
クリップなどの細い棒を穴へ差し込み、ボタンの感触があるまで押す。

充電するとき

充電できない

➡ USB ケーブルがキャリングケースおよびパソコンとしっかり接続されているか確認する。
➡ 左右のヘッドセットがキャリングケースに正しく収納されているか確認する。
➡ キャリングケースのふたが閉まっているか確認する。
➡ パソコンの電源が入っているか確認する。
➡ パソコンがスタンバイ（スリープ）、休止状態に入っていないことを確認する。
➡ USB 充電 AC 電源アダプターを用いて充電する場合は、推奨の AC-U501AD（別売）を使用しているか確認する。

充電時間が長い

➡ キャリングケースとパソコンが USB ハブなどを経由せずに直接つながっているか確認する。

キャリングケースがパソコンに認識されない

➡ USB ケーブルがきちんとパソコンの USB ポートに接続されていない。USB ケーブルを一度はずしてから、接続しなおす。
➡ キャリングケースとパソコンが USB ハブなどを経由せずに直接つながっているか確認する。
➡ 接続しているパソコンの USB ポートに問題がある可能性がある。パソコンに別の USB ポートがあれば、そのポートに接続しなおす。
➡ 上記に当てはまらない場合は、USB 接続をしなおす。

音楽を聞くとき

音が出ない

➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器の電源が入っているか確認する。
➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器が、A2DP で *Bluetooth* 接続されていない。A2DP で *Bluetooth* 接続をする。（25 ページ参照）
➡ 送信側 *Bluetooth* 機器で、音楽が再生されているか確認する。
➡ 本機の音量が小さすぎないか確認する。
➡ 接続した機器側で音量を調節する必要がある場合は、接続した機器で音量を上げる。
➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器を再度ペアリングする。（20 ページ参照）

音が小さい

➡ 本機の音量を上げる。
➡ 接続した機器側で音量を調節する必要がある場合は、接続した機器で音量を上げる。

音質が悪い

➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器が、HSP での *Bluetooth* 接続になっているときは、送信側 *Bluetooth* 機器を操作して、A2DP での *Bluetooth* 接続に切り換える。

音楽再生中に音が途切れやすい

➡ *Bluetooth* 機器から送信している音楽のビットレート設定と、ご使用環境との組み合わせによって、本機の受信状態が不安定になっている場合があります。*[1]
いったん送信側 *Bluetooth* 機器から A2DP の *Bluetooth* 接続を切り、本機の電源が切れている状態で、－ボタンを押しながら（マルチファンクション）ボタンを約 2 秒押し続けて電源を入れ、ランプ（赤）の電池残量表示後にランプ（青）が 1 回点滅してから離すとサウンドクオリティが「Standard」に変更され、本機で受信できるビットレートの設定が下がります。*[2]

*[1] ビットレートとは、1 秒あたりのデータ伝送量を表す数値です。一般的にビットレートが高いほど、音質が良くなります。本機は、高いビットレートで音楽を受信

次のページにつづく

できますが、ご使用環境によっては音が途切れやすい場合があります。

*2 ご使用の環境によっては、上記の操作で音の途切れが改善されない場合もあります。設定を「High quality」に戻すには、本機の電源が切れている状態で、＋ボタンを押しながら（マルチファンクション）ボタンを約 2 秒押し続けて電源を入れ、ランプ（赤）の電池残量表示後にランプ（青）が 2 回点滅してから離します。

通話するとき

通話相手の声が聞こえない

➡ 本機と *Bluetooth* 対応携帯電話の電源が入っているか確認する。

➡ 本機と *Bluetooth* 対応携帯電話が *Bluetooth* 接続されていない。
HFP、もしくは HSP で *Bluetooth* 接続をする。（27 ページ参照）

➡ *Bluetooth* 対応携帯電話の音声設定が、通話中に本機を使うようになっているか確認する。

➡ 本機の音量が小さすぎないか確認する。

➡ *Bluetooth* 対応携帯電話で音量を調節する必要がある場合は、音量を上げる。

➡ 本機で音楽を聞いているときは再生を停止して、本機のマルチファンクションボタンを押して着信に応答する。

通話相手からの声が小さい

➡ 本機の音量を上げる。

➡ *Bluetooth* 対応携帯電話で音量を調節する必要がある場合は、音量を上げる。

本機を初期化する

音量調節などを工場出荷時の設定に戻し、すべてのペアリング情報を削除します。

1 本機の電源が切れている状態で、（マルチファンクション）ボタンを 15 秒以上押し続ける。

10 秒以上押し続けるとランプ（青）が点灯し、15 秒以上押し続けるとランプ（青）が4回点滅して本機が工場出荷時の設定に戻ります。
すべてのペアリング情報が削除されます。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではワイヤレスステレオヘッドセットの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 6 年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

主な仕様

概要

通信方式
Bluetooth 標準規格 Ver. 3.0

出力
Bluetooth 標準規格 Power Class 2

最大通信距離
見通し距離約 10 m*[1]

使用周波数帯域
2.4 GHz 帯（2.4000 GHz – 2.4835 GHz）

変調方式
FHSS

対応 *Bluetooth* プロファイル *[2]
A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）、AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）、HFP（Hands-free Profile）、HSP（Headset Profile）

対応コーデック *[3]
SBC*[4]

対応コンテンツ保護
SCMS-T 方式

伝送帯域（A2DP）
20 Hz - 20,000 Hz（44.1 kHz サンプリング時）

同梱物
ヘッドセット（1）
バッテリー内蔵キャリングケース（1）
イヤーピース S（2）、M（2）、L（2）
USB ケーブル（1）
キャリングポーチ（1）
取扱説明書（本書）（1）
その他印刷物一式

推奨アクセサリー
USB 充電 AC 電源アダプター：
AC-U501AD（別売）

*[1] 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。
*[2] *Bluetooth* プロファイルとは、*Bluetooth* 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
*[3] 音声圧縮変換方式のこと
*[4] Subband Codec の略

ワイヤレスステレオヘッドセット

電源
DC 3.7 V：内蔵リチウムイオン充電式電池

質量
約 21 g

許容動作温度
5 ℃～ 35 ℃

レシーバー部

形式
密閉バランスド・アーマチュア型

ドライバーユニット
バランスド・アーマチュア

再生周波数帯域
14 Hz ～ 24,000 Hz

マイク部

型式
MEMS 型

指向特性
全指向性

有効周波数帯域
100 Hz – 4,000 Hz

USB 充電のパソコン推奨環境

以下の OS が標準インストールされており、USB ポートが標準装備されたパソコン

- 下記環境を満たすすべてのパソコンで動作を保証するものではありません。
- 日本語版標準インストールのみ。
- 自作パソコンは動作保証対象外です。

— Windows® をお使いの場合
Windows® 7　Starter / Home Premium /Professional / Ultimate
Windows Vista®（SP2 以降）
Home Basic / Home Premium / Business / Ultimate
Windows® XP（SP3 以降）
Home Edition / Professional / Media Center Edition 2004/ Media Center Edition 2005

— Macintosh をお使いの場合
Mac OS X(バージョン 10.3 以降)

Microsoft および Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソニーの相談窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

ホームページで調べるには

➡ AV 関連商品・アクセサリー カスタマーサポートへ
（http://www.sony.co.jp/av-acc）
Bluetooth アクセサリー商品に関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。

電話・FAX でのお問い合わせは

➡ ソニーの相談窓口へ（下記電話・FAX 番号）
- お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

セット本体に関するご質問時：

– 型名：XBA-BT75
– 製造（シリアル）番号：本体裏側のラベルに記載
– ご相談内容：できるだけ詳しく
– お買い上げ年月日

接続に関するご質問時

質問の内容によっては、本機に接続される機器についてご質問させていただく場合があります。事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

製品登録のおすすめ

ソニーは、製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、製品登録をお願いしております。詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。

パソコンから
http://www.sony.co.jp/avp-regi/

携帯電話から

2次元コード対応のカメラつき携帯電話の読み取り機能でご利用ください。

http://reg.msc.m.sony.jp/avp/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方 相談窓口	フリーダイヤル	0120-333-020
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	0466-31-2511
修理 相談窓口	フリーダイヤル	0120-222-330
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「309」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

4411333O3 (1)